

# できることから始めよう ー幅広い取組ー

ごくあたりまえと思われることも私たちはきちんと取り組んでいます。お金のかかることや派手に見えることよりも、まずはできることから。幅広い視点で小さなことでもまじめに取り組んでいます。

## ゴミの分別徹底



可能な限りリサイクルに努めています

## クールビズの啓発

**執務室での軽装を励行中**です

実施期間：6月1日～9月30日

地球温暖化対策の一環として  
冷房の過温化の徹底のために  
取り組んでいます。

日本原子力研究開発機構

冷房電力の低減に努めています

## コピー用紙削減や省電力の啓発

**平成22年度上期業務効率化推進キャンペーン**  
ー業務効率 今がベストか問う気持ち その意識がひらめきを呼ぶー

**仕事のやり方から見直しましょう**  
効果的な会議運営、資料作成…… ⇨ 出張合理化、コピー削減、省エネ……

**出張の合理化**

**目標：対21年度実績比 -40%を努力目標**  
経営層、本部部長、拠点長、部門長等の率先の下、機構一丸となって取組めます。  
○各部署ごとの主体的な取組み  
部署毎の目標設定、旅費執行状況の把握、旅費の見える化、出張命令者による必要性確認 等  
○機構内会議の原則TV会議化の徹底  
理事会、理事懇、本部部長会議、経営企画部実施計画個別にアライング 等

**コピー用紙削減**

**目標：対21年度実績比 -3% <カラーコピーは原則禁止>**  
19年度実績を100としたときの19、20及び21年度の合計、白黒及びカラーの比率  
○カラー単価は白黒の7倍  
○白黒での分かりやすい資料作成の工夫を  
カラーだけ増加!!

**省エネ啓蒙活動の推進**  
省エネの啓蒙活動を、出来ることから推進してください。  
省エネポスター掲示、昼休みの消灯、見える化運動、部内会議等での省エネ周知、省エネ研修 等

**改善提案常時受付中**  
気軽に提案して下さい。  
・提案時の所属長の確認不要  
・提案者の氏名等はイントラ掲載

**皆様ひとりひとりのご協力をお願いします。**  
業務効率化推進室

こうしたポスターを目につきやすい所へ貼って、業務全体の改善意識を促しています

## エレベーターの一部停止と階段利用の促進

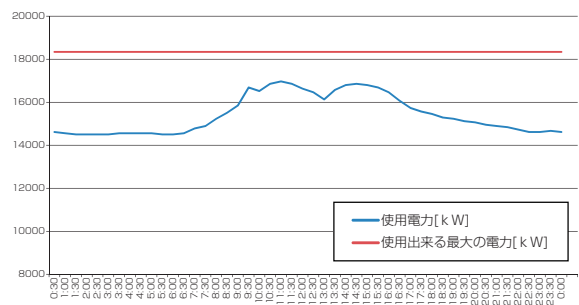
複数台のエレベーターがある場所では1台を停止し、階段利用(2up 3down)を促して省エネに努めています。



階段利用の奨励ポスターを貼って意識を高めています

## 使用電力の見える化

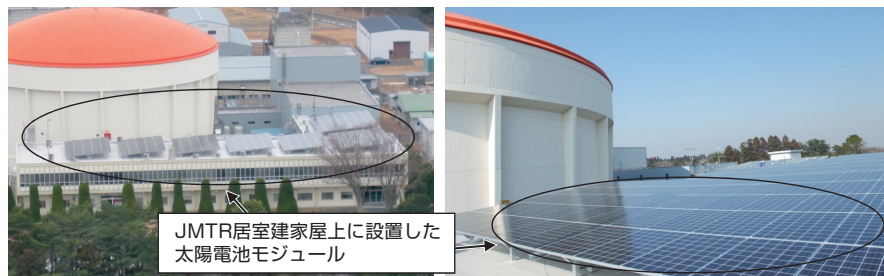
所内電気使用量の見える化を図り、所員がいつでも見られるようにイントラネットに掲載し、節電の意識を高めています。(サイクル研の例)



1日の電気使用量の推移

## JMTR 居室建家に太陽光発電設備を導入 節電及び CO<sub>2</sub> 削減に貢献する先駆的取組

大洗・照射試験炉センターは、材料試験炉(JMTR)の居室建家屋上に、クリーンエネルギーである太陽光を利用する発電設備を先駆的に導入し、2010年2月より居室用に発電を開始しました。



JMTR居室建家屋上に設置した太陽電池モジュール

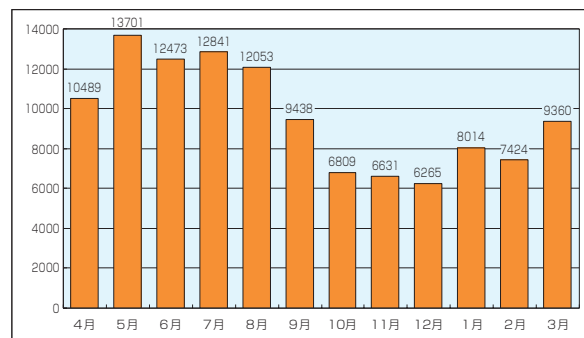
照射試験炉センターは、2007年度から2010年度までJMTR原子炉施設の改修を行ってきました。その一環として居室建家屋上の雨漏補修を行う際に、太陽光発電設備を併せて設置しました。これは一般社団法人新エネルギー導入促進協議会の公募「地域新エネルギー等導入促進事業」に応募し、採択されたことにより可能になったものです。

太陽光発電の2010年度における総発電量は、115,497kWh、月平均で9,625kWhで、建家の使用電力に対して約80%を賄っており、電力需給状況が厳しくなる夏場の節電に貢献しています。同時に、年間約30t以上のCO<sub>2</sub>の削減に寄与しています。

また、異常時の対応を行う現場指揮所のバックアップ電源として、非常用発電機に加えて太陽光発電設備からも給電できるようにするためのケーブル敷設工事を進めており、8月末までには給電可能となる予定です。

このように、JMTRでは、非常時の活用も考慮しつつ太陽光発電による環境保全に取り組んでいます。

単位：kWh



2010年度における太陽光発電量

## 環境の整備（美しい環境づくり）

拠点ごとに植栽の推進、維持管理、花壇の植付等を行っています。またサイクル研内にビオトープ<sup>1)</sup>を作っており、職場環境の向上に努めています。



高崎で桜の植樹



サイクル研の緑に包まれたビオトープガーデン

1) ビオトープとは、本来は「野生生物の生息する空間」であり、「生態系としてとらえることの可能な最小の地理的単位」としても使われます。